

新潟県総合計画評価・策定検討委員会 第4回全体会議 議事概要

1 開催概要

- (1) 日 時：令和6年10月28日（月）13：30～16：30
- (2) 会 場：新潟県自治会館1階 講堂（新潟市中央区新光町4-1）
- (3) 出席者：委員21名中、19名出席（うちWEB出席4名）

2 議事概要

(1) 事務局説明

議題 次期「新潟県総合計画」（仮称）素案について事務局から説明を行った。

(2) 主な委員意見

事務局説明後の意見交換における主な委員意見は以下のとおり。

ア 人口ビジョンについて

- 2050年に合計特殊出生率2.07を達成することは相当困難であるとは思いますが、目標を県民と共有するという姿勢は望ましいことだと思う。
- 首都圏への人口流出の抑制という観点から、新潟県の現状・課題の分析では、全国の指標の比較だけでなく東京都との比較も重要である。
- 推進体制について、県民会議に加え、若者会議、学生会議を設置していくという点は評価したい。今後8年間を見通した時に、これから新潟で暮らしていく、育っていくという若い方々の意見を、県の施策に反映させていくことが重要であり、実効性のあるものとしていただきたい。

イ 重要課題への対応について

- 第5章冒頭の「基本的な考え方」について、本計画における第5章（重要課題への対応）の位置づけが分かりやすくなるよう、第2章（新潟県の現状）や第3章（新潟県の人口ビジョン）を踏まえた課題認識や、目指すべき将来像との関連性について記載して強調すべきである。
- 子育てに必要な支援は経済的支援だけではなく、例えば、放課後児童クラブの利用時間の延長や学校等の送迎に対する支援等、保護者の負担が解消するような子育てに優しい支援に取り組んでいただきたい。
- 女性のキャリア形成のためには、男性の家事分担だけではなく、親の支援がなくても十分子育てができる環境を整備することが重要であり、若い夫婦が住む場所を選ぶ際の大事な要因にもなるため、新潟県の子育て支援が手厚いことについてアピールすべきである。

- 「重要課題 2：豊かに暮らせる持続可能な社会の構築」について、タイトルの「豊かに暮らせる」から、所得など経済的な側面の豊かさが想起されるが、政策の内容はそのようになっておらず、タイトルと内容に乖離があるため、タイトルを再度検討することが必要である。
- 若者の県内定着のためには、若者世代の価値観に合わせた新しい働き方やライフスタイルを提案して促進を図ることが重要であり、そのような点について記載すべきである。
- こどもの時に自分が住む地域の豊かさや魅力を学ぶと、一度県外に出ても将来新潟に戻ってくることにつながると考えるので、学校内の教育だけではなく、地域の中で地域の良さや魅力を学ぶことを加えるべきである。
- 本県のデジタル化に向け、生成 AI 等の先端技術の活用は今後必要となるものの、現状においては、まずデータ活用のための基盤整備などを進めるべきであり、官民データ活用推進基本法の制定という背景のほか、本県の現状・課題を踏まえた記載とすべきである。
- 社会のデジタル化が進む中で、学校教育においても今後、デジタル技術を活用し、ネットワーク環境の中での学習をどのように進めていくかはとても重要な課題であるため、積極的に取組を進めていただきたい。

ウ その他

- 本県の産業・経済分野の課題として挙げている「農業所得の向上」について、例えば、「農業所得は低下傾向」と記載するなど、課題として認識しやすい表現とすべきである。
- 人口が減少する中、地域住民との意見交換を丁寧に行いながら、必要なインフラ施設の見極めや維持管理を進めていくことが重要である。
- 市町村域を超えて広域連携して対応すべき課題については、県としては、市町村同士がうまく連携できるよう調整に力を発揮していただきたい。
- 計画には新たに EBPM（根拠に基づく政策立案）の推進が盛り込まれているが、そのためには政策立案に必要なデータの取得、ロジックモデルの作成、データ活用に係る人材育成などが重要である。財源が限られる中、データに基づき、費用対効果を分析し、優先順位の高いものから取り組んでいくことが必要である。

以上